



2019年1月10日

## マツダ、1310MPa級高張力鋼板冷間プレス部品を世界で初めて開発

—新型「MAZDA3」から順次採用—

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、新日鐵住金株式会社<sup>1</sup>、JFE スチール株式会社<sup>2</sup>の両社と、それぞれ共同で1310MPa級高張力鋼板を用いた車体構造用冷間プレス部品の開発に世界で初めて<sup>3</sup>成功しました。マツダでは、この1310MPa級高張力鋼板を取り入れた新世代車両構造技術「SKYACTIV-VEHICLE ARCHITECTURE(スカイアクティブ ビークル アーキテクチャー)」を、新型「MAZDA3」から順次、採用していきます。

高張力鋼板を自動車の部材に用いると必要な耐力をより薄肉で確保できるため、車体を軽量化することができ、操縦安定性能の向上や燃費性能の改善に貢献できます。また、衝突安全性能を確保するために高い強度も求められており、より高強度な鋼板の適用が期待されていました。

これまで冷間プレスで成形した部品を車体構造に採用する場合、成形性や加工後の寸法精度の確保の難しさから、高張力鋼板の強度は1180MPa級の採用に留まっていたましたが、それぞれ共同で技術開発に取り組み、適正な製造条件を定めることで、1310MPa級高張力鋼板の採用を可能にしました。

新型「MAZDA3」に1310MPa級高張力鋼板を採用した部品は、フロントピラーインナー、ルーフレールインナー、ヒンジピラーレイnfォース、ルーフレールレイnfォース、No.2 クロスメンバー、サイドシルインナーレイnfォースで、従来車の同部品と比べると合計で約3kgの軽量化を達成しています。



新型「MAZDA3」(北米仕様車)



1310MPa級高張力鋼板採用部品

マツダは、クルマ本来の魅力である「走る喜び」の提供をとおして、美しい「地球」と心豊かな「人」・「社会」の実現に貢献する商品開発に取り組んでいます。今後とも、クルマのある生活を通じて、お客さまの人生においてかけがえのない存在となり、お客さまと特別な絆を持ったブランドになることを目指してまいります。

\*1 新日鐵住金株式会社 (住所：東京都千代田区丸の内 2 丁目 6 番 1 号 代表取締役社長：進藤 孝生)

\*2 JFE スチール株式会社 (住所：東京都千代田区内幸町 2 丁目 2 番 3 号 代表取締役社長：柿木 厚司)

\*3 マツダ調べ(2019 年 1 月現在)